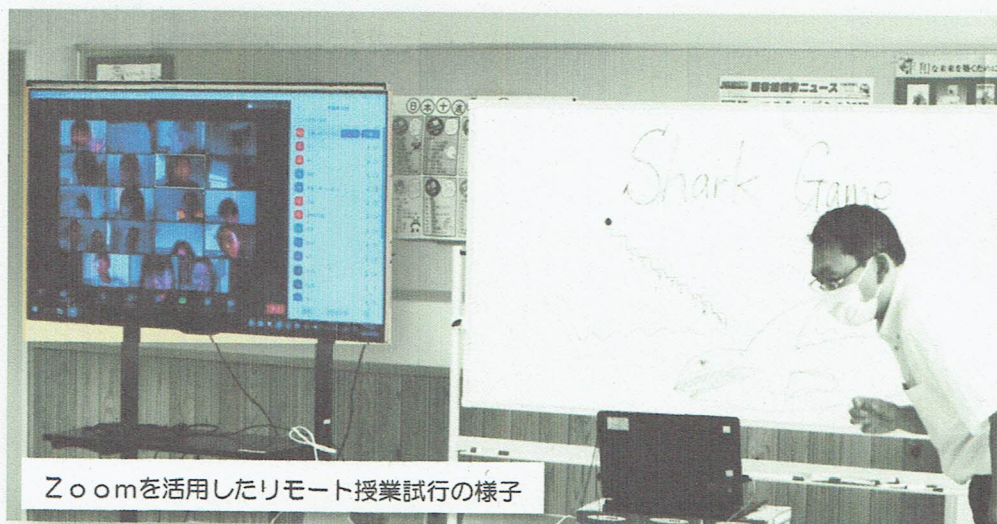


令和2年度  
第55回渡島公立学校教頭会研究大会

資料

「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」綴



日時：令和2年11月28日（土）  
会場：七飯町文化センター

渡島公立学校教頭会

令和2年度

## 第55回 渡島公立学校教頭会研究大会

### 大会主題

第12期 全国統一研究主題

「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」

キーワード〈自立・協働・創造〉

### 渡島公立学校教頭会研究主題

～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、

組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

《 道公教15次3カ年継続研究 》

### 目次

令和2年度渡島公立学校教頭会研究推進計画	1
研究推進ロードマップ2020	3
渡公教「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」について	4
各市町の「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」	5

# 令和2年度渡島公立学校教頭会研究推進計画

渡島公立学校教頭会研究部

## 1 研究主題及びサブテーマ（全公教研究主題、道公教サブテーマ、渡公教研究主題）

### ●全公教第12期全国統一研究主題

『未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり』 キーワード〈自立・協働・創造〉

### ●道公教第15次3カ年継続研究サブテーマ

「夢をもち未来を創り出す力を育む 活力ある学校づくりの推進」

### ●渡公教研究主題（道公教渡島ブロック担当→第4課題「組織・運営に関する課題」より）

～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、  
組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

## 2 主題設定の理由

渡島公立学校教頭会は、全国公立学校教頭会及び北海道公立学校教頭会の研究と連携を図り、平成29年度から3年をかけて、道公教第14次3カ年継続研究サブテーマ「豊かな心とたくましく生きる力を育む 活力ある学校づくりの推進」第5課題である「教職員の専門性に関する課題」に取り組み、「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」の研究主題の元、「教頭の役割のステージ一覧表」、「共通取組シート」により、教職員の意識高揚と資質能力向上を図る研究を推進してきた。これにより、教職員の専門家としての意識高揚や、学校経営への参画意識向上、資質向上に対し、教頭としてどのようにリーダーシップを発揮すべきかを明らかにするとともに、効果的研修、職務意識の高揚、服務規律の保持徹底、ミドルリーダーの育成等に着眼し、自校の教育効果を最大限高めるための教頭としての関わりについて具体的な実践を積み上げることができた。

令和2年度、道公教の研究は、「第15次3カ年継続研究」の「0年次」という扱いとなる。ただ、今後はこれまでに経験したことのない更なる長期的な臨時休業等への対応や、国が急速に進めるGIGAスクール構想への対応と、教頭として数年先の学校の姿をロードマップ化するなどしてイメージしておくことも大切である。また、将来の予測が困難な時代の中で、いかに子どもたちの積極的・能動的な「生きる力」を育みながら、学びを継続、保障させられるかについて、校内外にあるさまざまな組織の活性化とその活用やマネジメントしていく力等、教頭のより主体的な関わりが求められていくであろう。

そこで、今年度は道公教研究課題渡島ブロック担当の第4課題「組織・運営に関する課題」について重点的に取り組むこととする。「学びの保障」については、この度の新型肺炎感染症等による臨時休校からの学校再開へ向けた取組として道教委からの通知により、各種の工夫した取組がなされている。また、それらを効率的に推し進めるための組織作りや活性化へ向けた取組が各校で行われている。そこで、渡島公立学校教頭会としては、①今年度が道公教の研究計画の「0年次」であること、②組織的な取組が求められているICTの準備、活用が「待ったなしの状況」である事、③このタイムリーな内容を今年度共有しながら進めることは有益である事等を勘案し、～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～という研究主題のもと、校内はもちろん、異校種間や学校間の組織をICT機器等を活用して効率的、効果的に協働させたり、日頃から家庭、地域と連携し、子どもの居場所を確保するための準備を進めたりするなど、渡島の教育のスローガンにもある通り、子どもたちを「だれ一人として取り残さない」教育活動を進めるために教頭として、「今できることは何なのか」について、研究を深めることとしたい。

## 3 主題に迫る視点（重点）

【視点1】子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント

①ICT機器の活用（教育的効果と予測される問題点とその解決策 等）

②異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

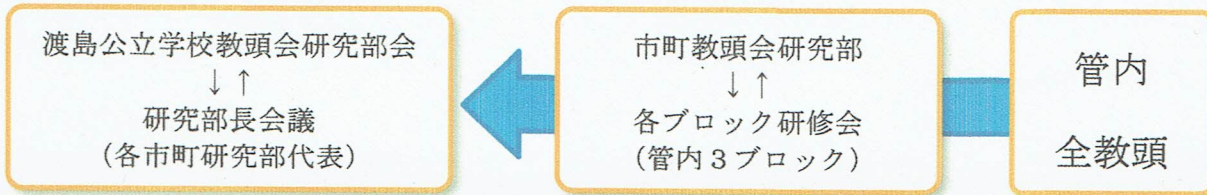
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方 ②働き方改革との関連性について

#### 4 研修の年次計画（年度の重点、方針）

- ・令和2年度：研究主題の設定と研修計画の立案、実践交流
  - ICT機器を活用した各種会議の実践と交流
  - 各市町の教頭のデータ管理、保存の仕方の実態把握
  - GIGAスクール構想に対応する数年先を見据えたロードマップの作成
- ・令和3年度：実践の改善・深化
  - 各市町の実態把握と実践収集
  - 2つの視点における課題把握と改善点等の分析
- ・令和4年度：成果と課題、研究のまとめ
  - 各市町の実践収集
  - 成果の分析
  - まとめ（データ化）

#### 5 研修の組織

##### (1) 組織図



##### (2) ブロック編成（※変則的なブロック編成も検討）

	各市町名	人数
1ブロック	松前④ 福島③ 知内④ 木古内②	13名
2ブロック	鹿部② 七飯⑨ 北斗⑮	26名
3ブロック	長万部② 八雲⑪ 森⑧	21名
	計	60名

#### 6 研修の年間計画

月	研修の行事・業務等	月	研修の行事・業務等
4	・研究部の組織づくり	10	・研究部会 ※オンライン会議 ・研究のまとめアンケート集約 ・各ブロック研修会 ※オンライン研修会の検討
5	・研究推進計画作成 ・研究推進計画の提案・確認 ・研究部会 ※オンライン会議		
6	・研究部長会議 ※オンライン会議 ・各市町による共通の取組・実践	11	・道公教第3ブロック研修会（11/20 函館） ・第55回渡島公立学校教頭会研究大会（11/28） ※オンライン研究大会の検討
7	・各市町による共通の取組・実践	12	・各市町教頭会の研究の成果の集約
8	・各市町による共通の取組・実践 ・昇任教頭研修会（8/3）	1	・研究部会 ※オンライン会議 ・研究部長会議 ※オンライン会議 ・研究のまとめ作成
9	・研究部会 （第54回全道公立学校教頭会研究大会帯 広大会 →中止）	2	・研究集録作成 ・次年度計画準備
		3	・次年度準備

#### 7 第55回渡島公立学校教頭会研究大会の企画（予定）

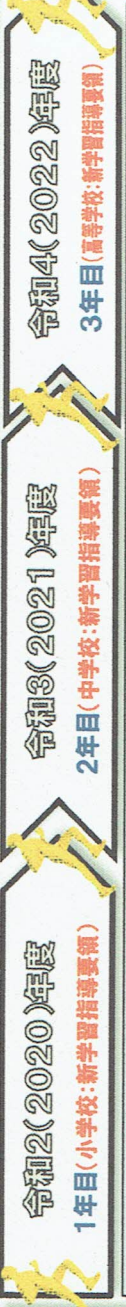
- (1) 主 題： 『未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり』
- (2) 開催時期： 令和2年11月28日（土） 午前日程 ※各市町とオンラインでの研究大会
- (3) 会 場： 主会場：七飯町文化センター、分散会場：各市町公民館等
- (4) 内容の概要： ○開会式 ○基調報告 ○分科会 ○全体講評 ○閉会式

#### 8 研修成果の集約時期とその方法

- (1) 集約の時期： 10月、12月
- (2) 集約の方法： 各市町教頭会による研究報告書による

# 渡島公立学校教頭会 研究推進ロードマップ 2020 《3年後の姿をイメージ化》

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～



【視点1】子どもの学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント

## 《研究の立ち上げ》

- 5月 研究主題の設定
- 5月 研修計画の立案
- 6月 各市町での実践スタート
- 7月 「共通取組シート 2020」
- ICT機器活用の実践交流
- データ管理等の実態把握
- 働き方改革との関連検証
- 外部との積極的連携
- 10月 研究アンケート集約①
- 11月 1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークの一体的整備(予定)
- 12月 研究アンケート集約②

## 実態把握・実践交流

## 《実践の積み上げ》

- 各市町の実態把握と実践収集
- 2つの視点における課題把握と改善点等の分析
- 遠隔・オンライン教育の推進
- デジタル教科書・教材等、ICTの積極的活用
- 異校種間・学校間の協働、家庭・地域との組織的な連携強化

## 課題把握・改善点分析

## 《研究の仕上げ》

- 各市町の実践収集
- 成果の分析
- まとめのデータ化
- 多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びの実現
- 校内研修の充実等、チーム効力を生み出す組織マネジメントの実現

## 課題解決・実践の充実

# Goal

全国統一研究主題

未来を生きる力を育む  
魅力ある学校づくり

自ら積極的に未来を創造していく  
意欲をもって行動する

時代の変化に的確に対応する

# 生きる力

平成29年度～令和元年度までの研究成果が土台  
「教頭の役割のステージ一覧表」、「共通取組シート」による具体的な実践の成果(↓教職員の意識高揚と資質能力向上)  
① 専門家としての意識高揚 ② 学校経営への参画意識 ③ 効果的研修  
④ 職務意識の高揚 ⑤ 服務規律の保持徹底 ⑥ 3/3ドールリーダーの育成

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

**主な社会背景**  
「新たな社会 Society5.0」 「持続可能な開発目標 SDG's」  
「GIGAスクール構想」 「学校での新しい生活様式」

# 渡公教「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」について

【研究主題】 ～子どもの「学びの保障」をするための組織作りに係る教育環境整備と、  
組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～

## 1 はじめに

・令和元年度までに使用した「共通取組シート」は、令和2年度以降の研究の土台であり、かつ、教職員の資質向上と経営参画意識向上に対する教頭の役割を自覚する有効な手立てとなるものです。ぜひ、引き続き「学校で取り組むこと」を各自で定め、「終結」段階における教職員の意識・資質と児童生徒の向上的変容を目指し、リーダーシップを発揮する上で「いつ」「だれに」「どのように働きかけをするか」、ステージを上げるために取り組んだことを成果として積み上げることで自己研鑽に励みたいと思います。なお、令和2年度も「共通取組シート」という名前を引き継ぎ、内容を研究主題に合ったものに切り替えつつ「実践のまとめシート」と兼ねる形式とすることで、日常的な実践と成果や課題を蓄積しやすいよう工夫しました。

## 2 「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」の使い方

- (1) まずは、各学校における実践内容を実践の都度記していただきます。
- (2) 可能なものは、「いつ」「だれが」「どのように」行った実践かがわかるように記していただくとありがたいです。
- (3) 【視点1】と【視点2】がありますが、必ずしもすべての項目を埋めなければならないという縛りのあるものではありません。  
→特に力を入れた実践があれば、それに特化することもあり得るということです。
- (4) 各学校の実践については、最終的に各市町で取りまとめ、各市町毎に1枚に取りまとめていただく予定です。すみませんが、取りまとめ役は、各市町の研究部長さんをお願いいたします。  
→渡公教研究大会の資料や最後の研究紀要の原稿としての活用を予定しています。

## 3 それぞれの視点について（※下記のポイントはあくまでも例です。）

- (1) 【視点1】について
  - ① 「ICT機器の活用」  
→オンライン授業などの各校で実践してみて得られた教育的効果、また、浮き彫りになった問題点や課題を記してください。可能であれば、解決策まで記してください。
  - ② 「異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携」  
→ICTの活用等を通して交流機会が増加した事例や、家庭学習課題などに活用できたことなどを含め、他と協働できたものがあれば、些細なものでもよいので記してください。
- (2) 【視点2】について
  - ① 「学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方」  
→教頭が関与して活性化を実現した学校組織などの好事例があれば記して下さい。  
→校務支援システム等の活用例をはじめ、勤務校が変わっても取り出しやすいデータ管理のあり方など、好事例があれば記してください。
  - ② 「働き方改革との関連性」  
→学校組織の活性化やデータ管理等が働き方改革に及ぼす影響等について、教頭がどうマネジメントすれば実効性を高められるかなどの視点で記してください。

## 4 今後のシートの活用予定

- (1) 6月～9月→各学校での実践等を着々と記述（※各市町の定例教頭会等で交流）
- (2) 10月→第1回目の集約を予定（※各校の実践を各市町毎で取りまとめ）
- (3) 11月→渡公教研究大会（11/28土）での資料として活用
- (4) 12月→第2回目の集約を予定（※研究大会後の修正、補足等）→そのまま研究集録の原稿へ

【視点1】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器の活用	教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)	予測される問題点とその解決策について
	<p><b>【家庭学習の補助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業時、高学年にタブレットを持ち帰らせて家庭学習の補助として活用した。</li> <li>・教材をプリント配布するのではなく、iPad を活用し、データで配布する等の工夫が見られる。教員の働き方改革と学びの個別最適化の両方に通じている面が一部見られる。</li> </ul> <p><b>【授業の効率化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級で揃えて大型モニター、拡大投影機、デジタル教科書、フラッシュ教材を活用することで、反復練習、課題提示や説明などをわかりやすくし、授業の効率化を図った。</li> <li>・各教室にデジタル教科書用のノートパソコン(デスクトップパソコン)を配置した。・デジタル教科書算数・理科(低は、国)の活用。複式学級において、複数のスクリーンを用意し、同時に操作可能とした。</li> <li>・全教科で iPad、実物投影機等を活用し、授業を行っている。調べ学習、宿泊研修での活用。</li> <li>・各教室にアップル TV、書画カメラ、プロジェクターを配置し、有効活用している。</li> <li>・体育館ステージにプロジェクター常時設置</li> </ul>	<p><b>【問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での取り扱いルールの指導</li> <li>・Wi-Fi 環境がない家庭があるので、端末に入れた授業動画やプリント類しかできない。</li> <li>・児童の活用状況が把握できない。</li> <li>・導入時の操作方法⇒<u>専門家を呼ぶ。他校との連携。</u></li> <li>・教職員の転出入による不具合⇒<u>マニュアルの作成、ICT 研修の実施</u></li> <li>・複式学級のため、ノートパソコンとモニターを増設したいが、教室内が窮屈になる。モニターを壁に取り付けるなど、<u>機器の設置方法を工夫する必要がある。</u></li> <li>・ICT 活用で、より生徒の思考力・判断力・表現力を高めるため、「<u>授業支援アプリ</u>」等を導入し、<u>生徒の意見を容易に可視化することが求められている。</u></li> <li>・<u>タイピング時間の抽出⇒年間指導計画に入れ込む。</u></li> <li>・個別対応の学習システムの確立⇒<u>学力向上委員会</u>で検討・実施</li> <li>・習熟度別学習でのシステムの確立⇒<u>学力向上委員会</u>で検討・実施</li> </ul>
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との協働、連携の実践内容	主な成果○と課題●
	<p><b>【外部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の会議をリモートで行った。</li> <li>・他校との会議は、ZOOMを活用し、移動の時間や手間を削減した。</li> <li>・町内リモート会議を実施。(生徒指導連絡協議会、宿泊研修打合せ、反省会議)</li> <li>・教頭会研究部会のリモート会議の実施</li> </ul> <p><b>【連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町教頭会のアカウントでネットストレージを作り、小中一貫に関わるデータの共有を行った。</li> </ul> <p><b>【家庭・地域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業中、5・6年児童にタブレットを貸し出したことで、家庭での学習意欲の向上へつながった。</li> <li>・小中一貫教育松前学園として、異校種間の連携はスムーズに行われている。また、CS が中核となり、町内各団体と連携する体制が確立されている。</li> <li>・中高の連携も、教頭間担当者間で行っており、人的交流により互いの教育内容の理解が進んでいる。</li> </ul>	<p><b>【連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校間の移動がなくなることで効率化された。(会議前後の隙間時間活用、往復4時間短縮)</li> <li>○メールで送付できない大きなデータや写真、教頭会や小中連携の資料など、教頭間で引継ぐ資料を共有できるようになった。</li> <li>○リモート会議にすることで、旅費がかからない。</li> <li>●会議構成メンバーによる、リモート会議に対するメンタルブロックの緩和。</li> </ul> <p><b>【家庭・地域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各家庭の通信環境に差があるため、家庭でタブレットを使用する場合はインターネットにつながせていない。今後、通信環境が整えば、多様なアプリを使用した家庭学習に取り組むことができる。</li> <li>○CS を中心に地域人材が授業に参画していただき、専門性の高い授業が展開されている。</li> <li>●CS の運営主体が学校となっているので、地域が主体となるよう、徐々に移行していく必要がある。</li> </ul>

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策
	<p>【ICT組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用に苦手意識をもっている教員が数名おり、会議でも取組に消極的な発言が多い。</li> <li>・ICT活用の組織作り</li> <li>・ICT効果的な活用の研修の実施</li> <li>・メール受信からの受付等の流れ</li> </ul> <p>【学校全体の分掌】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌業務に偏りがあり、多忙感のある職員がいる。</li> <li>・教員10名中、初任段階層が7名となり、組織的な人材育成が急務となっている。</li> <li>・急激な学級減により、この2～3年で教員数が大幅に減っている。そのため、一人ひとりの業務負担が大きくなっており、部活動再編等、組織の大幅な改編が必要となっている。</li> </ul>	<p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の指導方法や校務でのICT活用で、取り入れられる簡単なことを全体で揃えて取組み、徐々にレベルの向上を図る。</li> <li>・働き方改革実現と組織の改編を連動させ、新年度準備委員会で検討。</li> <li>・部活動の再編や学年団の業務の在り方の効率化に向け、教員の意識を揃えていく。</li> <li>・校内組織の見直し(組織再編、人材活用)</li> <li>・教頭会等での情報交流(横のつながり)</li> <li>・ミニ校内研修(時間短縮研修)で、ICT機器の使い方研修の実施</li> <li>・過去のデータも有効活用し、常にチームとして活動させる。</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事予定と学校日誌、欠席状況などは、一元化されているが、転出した個人が作ったフォームをもとにしているため、修正や改善がしづらい。</li> <li>・各校の校務支援システムに違いがあるため、異動後のデータ取り出しが困難である。</li> <li>・データの引き継ぎは順調に行われている。この土台をつくった前任者の功績が大きい。</li> <li>・フォルダ管理の整理</li> <li>・渉外関係文書の共有(依頼文書、礼状、など)</li> <li>・学習プリント等の一括管理</li> <li>・成績処理のICT化</li> </ul>	<p>【校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの導入。校務支援システムの導入に当たっては、町に校務支援システム加配を要望し、スムーズに進める。</li> <li>・現段階では課題は特にはない。しかし、児童生徒の学習成績等の一括管理を考えた時、校務支援システムの導入もあり得るのではないかと。</li> <li>・改善を含めたフォームの作り直し。</li> <li>・フォルダの配列を工夫する。</li> <li>・フォルダ管理の徹底</li> <li>・過去のデータも有効活用する。</li> <li>・常にチームとして活動させる。</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題●
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや資料等の共有化による教材開発・研究等の負担の軽減</li> <li>・学年や分掌等のミドルリーダーと話す機会を意図的に設け、様々な会議や協議事項を円滑に進める。</li> <li>・今年度はタイムマネジメントを重点とし、全員の超勤時間を明確にし、働き方改革について考える情報提供を行っている。</li> <li>・教員の中からも、部活動に指導する時間よりも、教材研究や補充学習に時間を使いたいという声が出ており、これを校内全体に広げていきたい。</li> <li>・勤怠管理システムの導入</li> <li>・機器に先行投資する。(スペックの高いパソコン、ラミネートの処理速さ、印刷速度の速さなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校務用PCの性能の向上等ハード面の整備</li> <li>●Zoom等を用いた会議の効率化</li> <li>●部活動の指導方法の工夫無くしては、在校時間の縮減にはつながらないことを、さらに浸透させていく必要がある。</li> <li>●外部より人材を招く等して、働き方改革研修会を実施したいと考えている。</li> <li>●委員会に人材確保のための予算要望</li> <li>●校務支援システム導入時の委員会との話し合いの必要性(教職員に負担のかからない導入の仕方を検討)</li> </ul>



【視点1】子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器の活用	<p>教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)</p> <p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島町ではiPadが児童一人に一台割り当てられているので、臨時休業期間中に先生方で、授業の動画や家庭学習のサポート動画、室内トレーニングの動画等を撮影し、iPadにに入れて家庭へ貸し出した。また、オンライン授業を試行するなど、臨時休業中における「学びの保障」の方策を実施し、家庭学習を補う手立てを行った。</li> <li>・複式の授業では大型テレビを2台用意し、パワーポイントで作成したスライドを、それぞれの学年に板書代わりに提示している。教員が板書をする時間が省かれ、その分児童への指導の時間が確保されている。</li> </ul> <p><b>【福島商業高等学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業中に課題の解説動画を「You Tube」で配信し、学習を補う手立てをした。(2科目)</li> <li>・双方向通信による解説と質疑応答により、学習を補う手立てをした。(1科目)</li> </ul>	<p>予測される問題点とその解決策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画やスライド作成に時間を要する。</li> <li>・児童生徒がタブレットを持ち帰るため、その使用方法、ルールについて各家庭への事前説明と協力要請が必要である。</li> <li>・児童生徒同士の直接的なかわり方、コミュニケーションの持ち方などを育てるための工夫が必要である。</li> <li>・町教委の対応が素晴らしく敏速であった。</li> <li>・全ての家庭にWi-Fiがあるかどうか、町教委が主体でアンケートをとってくれた。今後、その家庭に対する対応が必要となる。(貸し出しWi-Fiで対応が決定)</li> <li>・特定の教員が積極的に取り組んだが、他の教員へのICT活用が広められなかった。</li> <li>・関連機器の配置が予定されていることから、日常的な活用について研修会等を企画したい。</li> </ul>
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	<p>外部との協働、連携の実践内容</p> <p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣校との交流学习をリモートで実施した。今後、町研等の会議等、町全体としてリモート会議ができるよう検討中である。</li> <li>・今後、開催される福島小学校公開研究会において、来校が難しい学校については、リモート参観ができるように準備中である。</li> <li>・福島中学校では、文科省「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」の協力校として、附属函館中学校と連携し、オンラインによる合同教職員研修を行っている。(8月・9月・12月)</li> </ul> <p><b>【福島商業高等学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携事業として函館・苫前・下川・紋別の高校と授業「課題研究」の相互報告会を実施する予定(9月・12月)</li> </ul>	<p>主な成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で三密回避の中、新たな研修・研究会の在り方としてGIGAスクール構想の早期実現をし、リモートでの交流を手軽にできる環境の整備が必要。</li> <li>・福島町はリモート会議、リモート参観等が可能になるように環境整備中である。</li> <li>・外部へ報告することにより、生徒も教員も計画的で、かつ、内容を精査しようとする意識を持っている。</li> <li>・商業科以外の教科にも実践を広められないか検討中。</li> </ul>

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策
	<p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や分掌がそれぞれ少人数の組織であり、さらに特別委員会が多く、業務の掛け持ちや会議日が多い現状がある。</li> <li>・吉岡小学校は複式校のため、教頭も担任や分掌担当を担っている。学校組織の活性化よりも、学級経営に力を注いでいるのが現状である。</li> </ul> <p><b>【福島商業高等学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や分掌がそれぞれ少人数の組織なので、部長や主任間で話を進めてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会等を機能させ、スケジュールを見据えて計画的に会議などを開けるようにした。また、特別委員会については年度始めに業務の一部重なる委員会などは統廃合を行った。</li> <li>・学習指導員やスクールサポートスタッフが配置され、非常に助かっている。コロナ渦の中での措置ではあるが、今後も小規模校にも積極的に配置してほしい。</li> <li>・スケジュールを見据えて計画的に会議などを開き、様々な意見を交換することで、新しい発想を出しやすくする。</li> </ul>
	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭として、調査統計に費やす時間が膨大である。</li> <li>・福島町では、校務支援システムC4thが配備され、業務の効率化がなされている。また、校内LANの共有フォルダがあり、係・分掌・学年等で情報が共有できている。</li> </ul> <p><b>【福島商業高等学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部が年度始めに共有フォルダを整理してくれたので、係・分掌・学年等で情報が共有できているが、担当ごとに分類方法などに違いがあり、引き継ぐ際に時間を要することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような時期にどのような調査が行われたか、年間で見直しをもてるような一覧があると助かる。（新任教頭には）</li> <li>・さらにペーパーレス化を図る。</li> <li>・担当者を複数配置にして、自分以外でもわかりやすい保存を心がけさせる。</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	<p><b>【小学校・中学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日や部活動中止日、閉庁日の徹底を図り、教頭自身も早めの退勤を心がける。</li> <li>・中学校の部活動については、事務職員と協力し、練習時間や大会のチェックなどを行い、指導する。</li> <li>・ICT機器を有効に活用できるように、学年や分掌等の各組織を運営する若手職員に指導助言することにより、経営参画意識を図っている。</li> </ul> <p><b>【福島商業高等学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の必要性を鑑みて、8月から部長主任会議を無くす。議題の事前決裁が重要になることから、各担当の打合せを入念に、かつ、他分掌との調整を心がけてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における業務、外部機関の業務を精選し、効率化を図ることと、働き方改革の実効性を高めるために、研修時間の確保、ICTの活用について工夫が必要である。</li> <li>・部活動の業務改善については、保護者や地域の理解を得ながら進める。</li> <li>・業務量の偏りによる超過勤務がないように、適正な業務分担であるか検証したい。</li> </ul>

※ (小)…主に小学校が該当 (中)…主に中学校が該当 (高)…知内高校の情報提供 (共)…共通事項

【視点1】子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント		
○ ICT 機器の活用	教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)	予測される問題点とその解決策について
	<b>【オンライン・リモート学習の取組】</b> ・外部講師によるプログラミング学習をオンラインと対面とで数度実施したが、接続が安定している場合には特に学びの効果に差はなかったと感じている。(教室内で担任がサポートできるので) (小) ・休校期間中、タブレット(iPad)を全児童に貸与し、リモートで学活や簡単な遠隔学習を行った。(小) ・休業期間中にオンラインによる朝のSHRを試験的に行い、今後活用できるか検証した。(高)	・非常時の家庭との接続については、小学生では学年が下がるにつれて保護者の関りが必要となる。1～3年生では健康確認程度の活用であれば可能ではないかと考える。(小) ・各家庭のインターネット環境の整備状況を確認し、接続に問題がないか検証する必要性がある。(共) ・端末機器として、殆どの生徒がスマートフォンを利用していたが、授業等を実施する場合、画面が小さく授業を受けづらいと思われる。パソコンやタブレットの必要性を感じた。(高)
	<b>【集会活動】</b> ・全校集会・表彰式等、全校生徒を集めないで、TVを活用した。(中)	・ホールを活用し、TV放送することでより生徒に近い形で取り組める。(中) ・放送機器設備の充実。(中) ・タブレットの指導に時間を要する。(中)
<b>【授業での活用】</b> ・1年生のうちからiPadを使用し、操作に慣れさせている。全校の読書集会もKeyNoteを使用してのプレゼンを行っている。(小) ・体育の授業(跳び箱、よさこいなど)でiPadを活用し、授業の中で何がうまくできるようになったのか、何がうまくできなかったのかを振り返ることで、主体的な学びに繋げる。また、グループで協議する場面で用いることで、対話的な学びを深める。(小) ・算数科では、教師用のデジタル教科書を導入し、視覚的な効果を狙い理解を深めている。(共)	・低学年のうちから、使用に関してのルールを徹底しなくてはならない。(小) ・体育館や特別教室等においても、Wi-Fi等の通信環境を整えておかななくてはならない。(共) ・一人一台タブレットの導入に向けて、校内LAN設備の確認。(中)	
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との協働、連携の実践内容	主な成果と課題
	<b>【遠隔会議の実施】</b> ・遠隔会議システムを使用しての会議を行った。感染症対策の一助となると思われる。(町研関係の会議・教頭会議等) (共) ・町内でも設備に差があり、町内だからリモートしやすいとは言い切れない。特に校種が変わると意識も設備も違いが大きくなるのではないかと。(共) <b>【研修会の実施】</b> ・保護者対象でリモート体験研修会を実施した。(小)	・遠隔会議システムの使用頻度が急速に高まっているが、操作方法等については研修が必要。(共) ・校内に、リモート会議に参加できる場所、落ち着いて研修会を受講できる場所が必要と感じた。インターネットの環境の整備も必要であると感じた。(共) ・「ふるさと創生事業」が、今年度はリモートでの交流となり準備を進めている。この準備を進めることにより教員の技能向上の一助となっている。(小)

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の ICT 委員会では不慣れながらも前向きに取り組んでいるが、負担になっていないか。(小)</li> <li>・ICT事業に伴う端末を購入するに当たり、将来像検討委員会の中に、端末を購入するための部門を立ち上げた。(高)</li> <li>・オンデマンドでの研修など、道教委から配信されるものは、スクールネット北海道への登録が必要となり、アクセスが複雑である。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなり特殊な技能であることはたしかであることから、相談役が地域にいて補助体制が整っていれば負担が軽減されるのではないかと考えるが具体的に動いてはいない。(ICT 支援員) (小)</li> <li>・今後、購入する端末をどのように活用していくかなど検討する部門を立ち上げる。(高)</li> <li>・公立高校のシステムの一元化を望みたいところではあるが、現状は実現困難である。(高)</li> </ul>
	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・USBの管理については口頭で注意喚起しているだけである。家庭で学級通信等を作成することもあるかと思われるので、紛失がないよう個人情報管理の徹底が必要である。(小)</li> <li>・共有フォルダを作成し、データの共有化を図っているが、異動職員が文書管理の仕方に慣れるのに時間がかかる。(共)</li> <li>・共有フォルダを設置しているが、過年度も含めデータ量が多く、開く時や保存に時間がかかる。(共)</li> <li>・HPを更新する人材不足。(共)</li> <li>・タブレットに有料の学習用アプリをダウンロード、インストールする場合の決済について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間を意識した効率的な働き方。(小)</li> <li>・家と学校のパソコンがつながるシステムの整備。(クラウド) (小)</li> <li>・年度でフォルダをまとめるのか、項目でフォルダをまとめるのか、統一する。(共)</li> <li>・町内や渡島管内である程度統一できると良い。(共)</li> <li>・ICTの急速な教育現場への導入に、教委や当局が対応してもらえるよう、働きかけていく。</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	<p>教頭の組織マネジメント力向上のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー会議の重点化を図る。リーダー会議で課題の明確化が図られ、解決への方向性が示される場となっている。時間をできるだけかけない形にして分掌におろすことにより話し合いの時間軽減につながっている。(小)</li> <li>・各分掌とも経営参画意識をもった積極的な取組が見られる。しかし、昨年度踏襲という消極的な姿勢も見られるので、働き方改革を含め、教育活動全般（特に学校行事）において見直しや意識の変革が必要である。(共)</li> <li>・職員1人1人が、どういう学校にしたいのかを明確にもつこと。その方向性をそろえること。児童の実態から課題を共有することが大切になる。(共)</li> <li>・職員が一生懸命なのは良いことだが、時間外勤務も多くなっている。事務的な処理は効率的に行う方法を指導、助言し、創造的な仕事に時間をかけられるようにする。(共)</li> <li>・北海道アクションプランの実施。(共)</li> <li>・職員の働き方意識の高揚。(共)</li> <li>・改革推進コアチームの取組。(中)</li> </ul>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間的、精神的な余裕がないと、取組にも消極的になってしまう。勤務内容や時間の縮減を図る。(活動の不断の見直し) (共)</li> <li>・学力向上に課題が見られる→学力向上委員会 教員の不祥事が後を絶たない→服務規律委員会 等、特別委員会を設け、管理職ではなく一般教諭が主導してすすめていく。(共)</li> <li>・教育活動が「児童に必要なのか」「効果的な活動なのか」という視点で常に見るように意識付けを行う。(共)</li> <li>・次世代リーダーの育成(共)</li> </ul>

【視点1】子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器の活用	<p>教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)</p> <p>1 「一斉学習」「協働学習」の主な実践例</p> <p>○大型提示装置等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方の例示</li> <li>・教師の手元や児童生徒の作業状況を拡大提示</li> <li>・本時の流れや到達目標を提示</li> <li>・教材の背景・舞台となる映像や資料を提示</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【主体的な学び】興味・関心を高める 見通しをもつ</p> <p>【対話的な学び】先哲の考えを手がかりとする</p> <p>○動画の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合・演技・演奏などの動画を撮影、分析</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【主体的な学び】振り返って次につなげる</p> <p>【深い学び】知識・技能を習得する</p> <p>○プレゼンテーションや表計算のソフトの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のアイデアを全体で共有</li> <li>・客観的なデータに基づいて意見交流</li> </ul> <p>【対話的な学び】共に考えを創り上げる 思考を表現に置き換える</p> <p>【深い学び】知識や技能を概念化する 自分の考えを形成する</p> <p>2 「個別学習」の主な実践例</p> <p>木古内町における児童生徒1人1台端末の整備が本年末月に終了することから、個別学習に係る実践及び推進体制の充実については、研究2年次に行う予定。</p>	<p>予測される問題点とその解決策について</p> <p>【到達目標に関する課題】</p> <p>教員が、ICTを活用するための技術を習得するとともに、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用能力の育成</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の充実</li> </ul> <p>など、日常的に到達目標を再確認することが必要。</p> <p>【推進体制に関する課題】</p> <p>今年度の木古内町立学校におけるICT環境整備が行われることを契機に、各校の推進体制を整備・充実することが必要。</p> <p>○校内体制の整備</p> <p>ア 情報通信機器やコンピュータ室の管理を所管する校務分掌や特別委員会の設置状況 木古内小：教務部 木古内中：未設置</p> <p>イ ICTの活用による学習活動の充実などを所管する校務分掌や特別委員会の設置状況 木古内小：プログラミング教育担当者 木古内中：未設置（研究推進委が兼ねる）</p> <p>ウ 情報セキュリティに関する校内ルールの状況 木古内小：未策定 木古内中：未策定</p> <p>【学習活動への導入に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される問題点 1人1台端末の整備後も、従来から行われている「調べ学習」「プレゼンテーション」などにしか活用されない。</li> <li>・対応策 積極的な活用促進を図るための研修機会の充実が必要。</li> </ul>
	○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	<p>外部との協働、連携の実践内容</p> <p>感染症の再拡大時や大規模災害時における安否確認や文書配付、学びの保障に向けた練習も兼ねながら、以下の実践の実施の可能性について検討。</p> <p>1 「遠隔学習」の主な実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休み中の学習課題の提供、理解の遅い児童生徒への助言、採点・評価 など</li> </ul> <p>2 「家庭との連携」の主な実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季休業期間中における健康チェック</li> <li>・冬季休業期間中における文書配付</li> </ul>

## 【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策
	<p>○学校評価の一層の充実が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価 評価項目が学校経営方針を軸として設定されていないため、年度の重点目標が達成度を測ることができない。 重点目標に向け全職員で協力してがんばろうとする職場づくりのための意識改革へ</li> <li>学校関係者評価 評価の対象が狭く、広く地域住民の意見を聴取できていない。 木古内小：PTA、学校運営協議会委員 木古内中：PTA、学校運営協議会委員 また、PTAを兼ねる学校運営協議会委員が多く、委員候補者選考にも改善が必要。</li> </ul>	<p>○学校評価の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営方針を軸とした評価項目へ変更 <b>【変更するに当たっての課題】</b> 毎年度、評価項目のチェックや修正作業が必要</li> <li>学校関係者評価の対象区分の拡大 例) 外部講師（生活科や総合的な学習の時間の在り方） 保育園長（保小中の接続の在り方） 観光協会（児童生徒が参加する地域イベントの在り方） 消防署（防災の在り方） ※（ ）内は、期待できる意見</li> </ul> <p>⇒ 目標や取組方針を共有 ⇒ 学校改善に向けた活発な取組へ</p>
	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<p>○年度末・年度始の業務引継ぎの改善が必要</p> <p><b>【現状①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簿冊を引き継がず廃棄</li> <li>電子データを共有せず個人所有 ↓ (影響)</li> <li>非効率的業務となる 例) 依頼先や必要な手続きが不明→毎年同じ照会 例) スケジュールが不明→業務が遅れがち 例) 電子データがない→新たな入力作業</li> </ul> <p><b>【現状②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ管理の考え方が一様でない ↓ (影響) 例) 引継ぎ自体が非効率→引継ぎが行われない</li> </ul>	<p>○職場の共有財産 簿冊や電子データが職場の共有財産であるということへの理解の徹底</p> <p>○引継ぎを意識した業務 次年度担当者への引継ぎを念頭に置き、電子データや簿冊を管理するルールづくり</p> <p>○データ管理のルールの整備</p>
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	<p>○働き方改革の進捗管理が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内で具体的な目標が示されていない。</li> <li>働き方改革がどの程度進んだのかを評価する指標がない。</li> </ul>	<p>○進捗状況を判断するための指標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年次有給休暇の取得状況 など</li> </ul> <p>→ 更なる改善に向けた意欲喚起へ</p>

【視点1】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器 の活用	<p>教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験的な校内でのオンライン授業を実施した。</li> <li>・タブレット PC を用いた校内オンライン授業を 実行し、教職員及び児童がその活用を体験する ことができた。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け て、音声や画像、データを蓄積、簡単に活用 できた。</li> <li>・特別支援学級でリモート朝の会等、効果的に 活用できた。</li> <li>・コロナ禍での児童生徒の交流活動を実施した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が動画を撮影し、タブレットを持ち帰 らせ、動画を見ながらの学習を実施した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットにデジタル教材を入れ、各教室の モニタと接続することで、一層「わかる」授 業がしやすくなった。</li> <li>・eラーニングの使い方やルールについて の授業を実施した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング教育について校内研修を行 うことができた。</li> <li>・プログラミングロボット Pepper やレゴ wedo を活用し、プログラミングに関心を 持たせることができた。</li> </ul>	<p>予測される問題点とその解決策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の整備 (一人一台)</li> <li>・家庭や場所による通信環境の差がある。</li> <li>・家庭でのサポートの必要性。</li> <li>・通信環境の安定性の確保。</li> <li>・オンライン授業を受けられない児童生徒 への対応 (DVD 化して配布等)</li> <li>・オンライン授業を試行するための事前指 導の時間の確保。</li> <li>・音声や画像に鮮明さに課題。備品購入 などの環境整備が必要。</li> <li>・音声や映像の鮮明さに課題。子供たち の感想を改善につなげる。</li> <li>・活用に個人差がある。研修を行い、活 用頻度をあげていく必要性。</li> <li>・児童生徒の意欲的な取り組みが見られ た。</li> <li>・一人一台の端末に向け、研修を計画的 に進めていく必要がある。</li> </ul>
○異校種間、 学校間との 協働性、家 庭・地域との 組織的な連 携	<p>外部との協働、連携の実践内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区で連携し、Zoom を使用した授 業交流や児童生徒の交流を行った。</li> <li>・合同学習の事前学習や学校行事の交流 を近隣校とリモートで実施した。</li> <li>・各種教育機関との連携や資料館、美術 館との連携をリモート授業で実践した。</li> <li>・修学旅行のライブ中継で児童の様子や 感染症対策について伝えた。</li> <li>・教師間でリモート会議を頻繁に行うよ うになった。</li> <li>・PTA や保護者との会議の実施。</li> </ul>	<p>主な成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭会の地域連携プロジェクトが中 心となり、学校間で連携を取った年間計 画を作成したことで、実践がスムーズに 行えている。</li> <li>・交流形態の選択肢が増え、移動時間 が短縮や児童生徒による事前の交流によ り合同学習がスムーズに進行した。</li> <li>・教師間の打ち合わせの簡略化でき た。</li> <li>・児童生徒への興味関心の喚起による 学習効果の増大。</li> <li>・中学校区内の小学校が交流活動を行 うことで、中学校進学に対しての不安の 軽減化がはかれる。</li> <li>・保護者や地域との交流機会の可能性 が広がった。</li> <li>・接続時間の問題 (zoom)。</li> <li>・アカウントの問題。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの際、瞬時に対応できない場合がある。</li> <li>・来年度以降、年間計画作成等のイニシアチブをとるべき組織（人）が明確になっていない。</li> </ul>
--	--	---

## 【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	<p>現状における課題等（組織の活性化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手段（ICT の活用）が目的化している傾向が見られる。</li> <li>・ミドルリーダーに責任感を持たせる働きかけが必要。</li> <li>・職員一人一人の経営参画意識をいかに高めるか。</li> <li>・組織的な動きが機能しておらず、主体性に向け、対応や取り組みが活性化されにくい。</li> <li>・分掌や各種特別委員会の見直し再編の必要性がある。</li> </ul>	<p>具体的な解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を再確認させることで、現状の見直しを図ろうとする視点を持たせる。</li> <li>・各部の進行状況を相互チェックさせること。</li> <li>・校務運営委員会等を利用したリーダーの自覚と組織的な動きをつくりだす働きかけ。</li> <li>・ロードマップを作成し、それに関する各組織の役割を明確化する。</li> <li>・校内研修による教職員への意識づけ。</li> </ul>
	<p>現状における課題等（データ管理、保存）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共有フォルダの活用（確実なデータの引継ぎ）</li> <li>・データは全て学校の外付けハードディスクに保存し、USB での持ち出しは禁止している。</li> <li>・停電し通電復旧後ハードディスクに異常が生じ、修理まで一部の校務に支障をきたした。</li> <li>・データ管理に関するガイドラインの必要性</li> <li>・北斗市によるタブレット管理やクラウド整備によるガイドライン作成の必要性がある。</li> <li>・校務支援システムのメリットを最大限に活用できる利用法の検討</li> <li>・各市町で導入している校務支援システムに違いがあり、転勤先でデータの取り出しに苦勞することがある。</li> </ul>	<p>具体的な解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者の明確化。</li> <li>・フォルダやファイルの整理を行い、使いやすい共有フォルダづくりを行う。</li> <li>・過去データの計画的な削除。</li> <li>・定期的にバックアップの実施。</li> <li>・ICT を推進する分掌を組織化。ICT 担当教諭の育成。</li> <li>・校内、市内でのガイドラインの整備。</li> <li>・北斗市として共通したルールの作成。</li> <li>・担当を中心とした取組。</li> <li>・教頭が管理するデータフォルダの配列の渡島全域での共有化の必要性。</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	<p>教頭の組織マネジメント力向上のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に向けた目標の共有化。</li> <li>・業務改善の成果が現れている実態を周知させ、実感をさせる。</li> <li>・各先生方の取組や効果の交流及び共有化。</li> <li>・教頭と教職員のコミュニケーションの活性化。</li> </ul>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務効率化のための保護者への周知。</li> <li>・ICT を活用した業務の標準化。</li> <li>・特定の教員に対する啓蒙活動が必要</li> <li>・校内研修などを通じ職員と実態を共有し、改革の意識を高めていくことが求められる。</li> <li>・働き方改革を進めるための環境整備。</li> </ul>



【視点1】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント		
<p>○ICT 機器の活用</p>	<p>教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のユニバーサルデザイン化～実物投影機、プロジェクターの各教室への配備</li> <li>○校内研修における、プログラミング教育の実践やクロムブックの体験、オンデマンドによる外国語研修の実施</li> <li>○デジタル教科書(算数科)を使った実践についての研修</li> <li>○全校児童生徒のe-ラーニング登録</li> <li>○授業ビデオの録画と配布(休校期間)</li> <li>○動画共有アプリ「Mevie」の活用(授業動画配信、児童の活用状況の配信)</li> <li>○PC、プロジェクターを活用した授業展開</li> <li>○タブレットの導入(今後)</li> </ul>	<p>予測される問題点とその解決策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人情報の管理</li> <li>○家庭による通信環境の差(環境が整っていない家庭へのDVD,CD等の配布、及びタブレットの貸出し)</li> <li>○(DVD制作について)授業準備に、通常より時間を要する</li> <li>○SSS等の活用による業務負担軽減</li> <li>○クロムブックの実用化(教員が使用できる)と留意事項の共通理解(町のICT委員会)</li> <li>○ICT活用のためのカリキュラム編成</li> <li>○タブレット使用方法について、児童生徒に指導できるように教職員の計画的な研修</li> <li>○タブレット活用授業をどう構築していくか</li> <li>○特別な事情のある学校の児童生徒のネット利用について</li> </ul>
<p>○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との協働、連携の実践内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○町としてのGIGAスクール構想の取組(ICT委員会)</li> <li>○各家庭のWiFi環境の把握</li> <li>○GIGAスクールサポーターとして町教委、民間会社との連携を図り、ICT機器の効果的活用を推進</li> <li>○遠隔授業(未着手)</li> <li>○町の教頭会における、「学びの保障」に関わるオンラインやリモート学習についての研修や現況について情報交換</li> <li>○中学校区の連携組織を中心とした取組の推進</li> <li>○地域の学童クラブへの計画的な訪問</li> <li>○中学校区での「家庭学習強調週間」の実施</li> </ul>	<p>主な成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインの考え方の全教員による共有</li> <li>○GIGAスクール構想展開にあたり、町内・校内のガイドライン設定の必要性</li> <li>○遠隔授業の必要性</li> <li>○それぞれのネットワーク環境の差による、音声や対話の難しさなどの不具合</li> <li>○校内組織の体制を整備することができた</li> <li>○9年間を見通した教育課程の編成(ICT構想を入れ込む)</li> <li>○地域学童クラブとの連携強化</li> </ul>
【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
<p>○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方</p>	<p>現状における課題等(組織の活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全児童生徒タブレット配布に対応できる担当及び組織の設定</li> <li>○学校運営委員会、学年経営委員会による「学びの保障」や新しい生活様式、GIGAスクール構想についての基本方針の設定。教員一人一人の共通理解や組織的な対応の必要性</li> <li>○ICT推進に対応する組織の欠如、意図的・計画的な推進の必要</li> <li>○改善に積極的な職員と消極的な職員の意識の差</li> <li>○学校評価の改訂(教職員、児童、保護者での比較のしやすさ)</li> </ul>	<p>具体的な解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT教育推進に関わる校内組織の新設及び再編成</li> <li>○ICTサポーターとの連携強化</li> <li>○学校評価を受け、改善策を立案～デジタル化による情報共有</li> <li>○改善に積極的な職員の責任ある立場への登用と、組織の活性化</li> </ul>

	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内共有フォルダの管理担当、データ管理のガイドラインの必要性</li> <li>○「校務運営システム」についての、活用促進、全教職員による活用法の共有、異動先でのデータ共有の難しさ</li> <li>○児童生徒がPCで学習したデータ保存先の、共有（情報管理）</li> <li>○事務職員による共有データの整理</li> <li>○USB紛失等による情報の流出の危険性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内ICT委員会を発足し、ゴールの共有とプロジェクトとしての具体案の提案</li> <li>○校務運営システムの運用</li> <li>○生徒の情報管理に関する校内規定の策定</li> <li>○（今後の）タブレット導入に関わり、活用計画の作成</li> <li>○共有フォルダ内のデータ消去についてのマニュアル作成</li> <li>○クラウドの活用</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ミドルリーダーの役割の明確化、ミドルリーダーからの実効性のあるプロジェクトの提案（目標、期限、役割の明確化）</li> <li>○ミドルリーダーとのコミュニケーション活性化と、各組織の機能性の向上</li> <li>○課題と具体的解決策を SMART の観点を生かして組織的に整理する</li> <li>○校内研修における ICT 活用の実践交流推進（研修ロードマップの作成、年齢等の職員構成に配慮した研修内容案作成補助）</li> <li>○「学びの保障」について ICT 活用事例、オンライン授業活用事例の収集と教職員への発信</li> <li>○校務運営システムへのスムーズな移行</li> <li>○朝打合せの縮減（週2回）、業務連絡、出席簿、通知表のデジタル化</li> <li>○校長への積極的な意見具申</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の担当業務の平準化</li> <li>○トップダウンに偏重しないよう、ボトムアップ、ミドル・アップダウンによるマネジメントの充実</li> <li>○校内ICT委員会の発足、今後の「学びの保障」についての提案・実践・検証・改善</li> <li>○抵抗感を示す職員へのアプローチの工夫</li> <li>○職員との信頼に基づいた人間関係の構築、業務内容の見直し、精選</li> <li>○タイムマネジメントと若手教員の育成</li> <li>○会議縮小、各プロジェクトの進捗状況の視覚化</li> <li>○若手教員の長所を生かしたプロジェクトによる職員室の活性化</li> </ul>

【視点1】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント

<p>○ICT 機器の活用</p>	<p>教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の臨時休業中に、安心メールを使用し、各教科の課題一覧や、資料を全家庭に配信した。</li> <li>・GIGA スクール構想の準備として、各教室に65型のテレビを配置した。各教科で、パソコンと接続して、ネットや自作資料の提示を行っている。道徳などではパワーポイントで学習資料を作成し、授業を行った。</li> <li>・鹿部町の独自予算で、児童生徒全員にタブレットを配布し、wifi環境も整えた。また、「スタディサプリ」というソフトも入れてもらい、家庭での学習の軸とする。</li> <li>・GIGA スクール構想のパソコン導入まで、ZOOMによる研修で使用できるウェブカメラとヘッドフォンを4台ずつ購入してもらった。</li> </ul>	<p>予測される問題点とその解決策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一度の配信で送付できるデータ量が少なく、全教科のデータを送るのには時間がかかる。双方向ではないので、学校からの一方的な配信となる。</li> <li>・電子黒板は一枚に1台しかなく、今のところ板書に頼らざるを得ない。タブレットによる記述にはソフト面や、教師側への研修など、まだ時間がかかる。</li> <li>・タブレットは家庭保管。不正使用や破損したときの対応など、課題がある。また、不具合が生じたときに、対応できる技術者も必要だが、町に配置されるのはまだ先のことである。</li> </ul>
<p>○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との協働、連携の実践内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備は町教委が主体となって、連携して進めているが、まだ実際にICTを活用しての取組はない。</li> </ul>	<p>主な成果と課題</p>

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント

<p>○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方</p>	<p>現状における課題等 (組織の活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿部町は校務支援システムを採用しており、出欠や成績等、一元管理がなされている。</li> <li>・校内の各分掌、生徒のデータも共通フォルダに整理されて運用されている。</li> <li>・ICT教育は、専門的な知識や技能のある職員が中心となって進めていく必要がある。(人材確保)</li> </ul>	<p>具体的な解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内組織を見直し、情報部を置いてそこを中心にICT教育の推進を図る。</li> </ul>
--------------------------------	---	--

	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古いデータの整理、保存はできているが、写真や動画の選別、破棄、保存に時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報部が定期的に点検・管理する。</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、もしくは町単位でのクラウドを作成し、情報の一元化を図る。それによって、在宅勤務などを有効活用できるようにする。</li> <li>・ICT を活用した、教職員との報告・連絡・相談体制の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティの確立と、ICT 化に向けた校内研修の推進。</li> </ul>

**【視点1】子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント**

○ICT 機器の活用	教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)	予測される問題点とその解決策について
	<p>①森町内学校へのGIGAスクール構想における教諭用、児童用タブレットの導入と活用 *児童・生徒用は10~11月ころに順次配置</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">iPad (32GB) LTE回線契約 校内Wi-Fi 化工事済</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での活用、補充的学習や発展的学習での活用</li> <li>・児童・生徒が家庭に持ち帰ることにより、家庭学習、補充・発展学習が可能となる。</li> <li>・学級通信等の電子配信化</li> <li>・学校学級閉鎖時の学習や連絡の対応が可能になる。</li> <li>・</li> </ul> <p>②ICT機器活用による教材の共有化</p>	<p>△授業での活用状況、学校間や教師間での使用頻度の差異が出ないように、活用についての研修や交流、指導が必要である。</p> <p>△家庭での使用に関するルールの策定、学習以外の使用に対する指導が必要である。</p> <p>◎おたより等の作成の負担軽減</p> <p>△情報機器活用能力の向上が必須。校内での研修が必要になる。</p>
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との協働、連携の実践内容	主な成果と課題
	<p>(学校間との協働性)</p> <p>①Microsoft Teamsによる町内教頭間のコミュニケーションの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送受信が非常に簡単なコミュニケーションツールであり、町内教頭間をつなぐことにより連絡、問い合わせ、ファイルの共有・共同作業が可能となる。</li> <li>・外部各種会議等において、事前にデータを送付することで時間の短縮を図れる。</li> </ul> <p>(家庭・地域との組織的な連携)</p> <p>②保護者アンケートをICT(forms)を使用し、効率的に回収・分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレスでやり取りを行うことで、迅速かつ集約の手間をかけることなく、業務を完了することができる。</li> </ul>	<p>△年次更新、管理者の引継ぎ</p> <p>◎コミュニケーションを密にとることによって、教頭業務の軽減、町内各校の足並みが揃った取組が可能となった</p> <p>◎他の組織への広まり(町校長会、合同修学旅行実行委員会など)</p> <p>◎紙に比べ大幅な手間と時間を削減できる</p> <p>△サイトの管理・年次更新・引継ぎ</p>

**【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント**

○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等(組織の活性化)	具体的な解決策
	<p>①町内各小中学校の実践と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OneNoteによる校務や分掌業務、OneDriveによる教師間・学校間のデータの共有</li> </ul>	<p>◎クラウドでの運用に伴い、自宅など学校外からのアクセスが可能となった</p> <p>◎一日の予定、職員動向、職員会議(会議録)、学校日誌の一元化</p> <p>△システムの構築、年次更新、引継ぎ</p>

○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	②教諭用タブレットの活用 ・タブレットにはメールソフト、ワード、エクセル、パワーポイント等がインストールされており、必要なファイルをクラウドに上げることで、いつでもどこでも内容の閲覧・加除修正が可能となる。	◎時間・場所を選ばず、データの確認が可能 △タブレットの紛失防止についての対策が必要
	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	①町内各小中学校の実践と課題 ・クラウドでのデータ管理	○森町は全教職員に Office365 のアカウントを割り当てられており、個人にも OneDrive が与えられている。(USB 紛失事故の防止) △データ管理方法の統一（フォルダ作成等）と前年度ファイルの保存・保管の管理
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	①情報の共有化（迅速に、検索を容易かつ、必要な情報を必要な分だけ得られるよう工夫） ②業務の精選 ③事前に情報を周知することで時間短縮を図れる。	△システムの構築とその継続・引継ぎは課題である。 △働き方改革に結びつく効果的な活用
<u>ICT化に伴う成果と課題、解決方法</u> ◎Teams による、町内教頭間の連携の強化を図れた △システムの維持管理、更新、引継ぎが課題である →維持・管理の具体的な方法（マニュアル等）の作成 →教育委員会（ICT担当）との連携、校内担当者の育成と校内組織の確立 △ICTに関する研修（授業や校務における効果的な活用方法）が必要である →町研の組織の活用（授業の公開や全体研修、「ICT部会」等の立ち上げ） →校内研修等における実践交流		

【視点1】子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器の活用	<p>教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)</p> <p><b>【既存の ICT 機器の利活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導用コンテンツの充実と日常的な活用</li> <li>・機器例) PC、書画カメラ、タブレット</li> <li>・活用例) 投影、検索、プレゼンテーション作成、映像活用</li> </ul> <p><b>【GIGA スクール構想に係る ICT 機器の利活用】</b></p> <p>&lt;八雲町→「G Suite for Education」を利用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活用構想                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・リモート学習、授業や家庭学習</li> <li>・クラウド上での教材の共有</li> <li>・解答結果やアンケート結果の自動集計</li> <li>・meet 機能を生かした対話的な学習</li> </ul> </li> <li>○ 研修活動の推進 (教職員、児童・生徒)</li> <li>○ 校内利用規則の策定 (町の利用規約に基づく)</li> </ul> <p>※ 組織的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門委員会の設置や担当者の任命</li> <li>・ロードマップの作成と共有</li> <li>・各教科での活用計画の作成 (教育課程)</li> <li>・先進的な事例の収集と発信・共有</li> </ul>	<p>予測される問題点とその解決策について</p> <p><b>【問題点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教職員の意識や使用スキルの差による子供の学びの保障への差が生じること</li> <li>②端末の家庭への持ち帰りに伴う、利用・管理についての保護者への周知や徹底を図ること</li> <li>③児童・生徒へのマナーも含めた機器操作能力の向上 (発達段階を踏まえて)</li> </ol> <p><b>【解決策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教職員の意識改革とスキルアップの実現                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 研修の充実</li> <li>・コンプライアンスの再確認と徹底 (個人の連絡に使わない)</li> </ul> </li> <li>②教育課程における ICT 活用の位置付けを明確化すること</li> <li>③情報発信の工夫、必要に応じた保護者説明会の実施など</li> <li>③情報活用能力育成のための全体計画の策定 (いつまでに、何ができるようになる)</li> </ol>
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	<p>外部との協働、連携の実践内容</p> <p><b>【ICT 活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町教委主催による ICT リモート説明会</li> <li>・小中一貫教育の一事業として、合同研修会の実施</li> </ul> <p><b>【既成の取組への ICT 活用を検討する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中から小への乗り入れ授業での活用</li> <li>・複式校間や同一中学校区での小学校間における交流学習での活用</li> </ul> <p>※ GIGA スクール構想に係り職員研修の充実や、校内体制、計画策定を図っている途次のため、協働・連携を視点とした取組は、今後の課題としている。</p>	<p>主な成果と課題</p> <p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リモート研修は集合型に比べ移動時間等、職員の負担軽減に結びついている</li> </ul> <p><b>【課題 (予想も含む)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階を踏まえた活用の見通しをもつことや、小中一貫した計画作りが必要</li> <li>・保護者に十分な理解を得ながら運用するための説明機会や方法の工夫が必要</li> </ul>
【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	<p>現状における課題等 (組織の活性化)</p> <p><b>【GIGA スクール構想に係る ICT 活用について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識が十分ではないため、ICT 教育担当者の負担が大きいこと</li> <li>・ICT 環境整備のスピードアップに伴う担当分掌への業務偏向</li> <li>・教職員一人一人の意識改革とスキルの向上</li> </ul> <p><b>【校務分掌】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校においては、職員数が少ないことによる一人一分掌的な組織体制や一人当たりの業務量の増加</li> </ul>	<p>具体的な解決策</p> <p><b>【GIGA スクール構想に係る ICT 活用について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修計画の再編と実施</li> <li>・専門性がなくても対応できるマニュアルの作成</li> <li>・既存の校務運営委員会に ICT 環境整備に向けた特別委員会を兼務させる</li> <li>・ロードマップ作成時において業務の偏りがでないように各担当を配置</li> </ul> <p><b>【校務分掌】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の計画 (立案) 担当の分掌に教頭が入り、協議・改善を図る</li> <li>・一人に業務が偏らないよう協働体制を構築</li> </ul>

	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<p>【教頭の立場で】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町で導入している校務支援システムの違いと各個人ごとの仕分け方に違いがあるため、転勤先でデータの取り出しに苦労がある。</li> <li>・フォルダーの名前や配列等、それぞれの教頭によって特徴があるため、データを探すことに苦労する。</li> </ul> <p>【業務効率化を目指す情報の共有化に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学担が個々に作成した教材は、個々のフォルダ内に保存されているため教材の共有化が進まない</li> <li>・個人でのデータ保管から共有データへの移行</li> </ul>	<p>【教頭の立場で】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは町全体で保存方法の仕方がある程度統一できるようにガイドラインを検討することの可否判断から始めること</li> <li>・異動時にデータ保存の配列の仕方について、確実に後任に引き継ぐ</li> </ul> <p>【業務効率化を目指す情報の共有化に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部を中心に、学年・教科別のフォルダを作成し、個々が作成した教材データを保存し共有する体制を整備する</li> </ul>
○働き方改革との関連性について	<p>教頭の組織マネジメント力向上のポイント</p> <p>【業務改善を進めるための4つのポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校や働き方改革の目標を教職員全員で共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の課題の把握</li> <li>・働き方改革に関する国等の動向の理解</li> </ul> </li> <li>②潜在的な疑問の掘り起こし（疑問の共有化） <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員の業務削減に対する意見集約</li> </ul> </li> <li>③心配の先取りをせず、まずできることから実行</li> <li>④前例、習慣、経験を強調しない</li> </ol> <p>【人事評価制度の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談における勤務時間を意識した働き方への意識付け</li> </ul> <p>【分掌業務の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌業務等の仕事内容の軽重を検証し、業務の精選及び均等化を図る</li> <li>・働き方改革チームの設置</li> <li>・教頭による積極的な指導・助言</li> <li>・協働体制の構築（チーム学校）</li> </ul>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善が子供の学びの保障を損なわないよう留意すること</li> <li>・勤務時間だけに捉われず、効率よい業務内容の充実を目指すこと</li> <li>・1年単位の変形労働時間制への共通理解と活用</li> <li>・研修時間の確保や面談機械の充実を図るための時間や方法の工夫</li> <li>・教職員の働き方改革へ取り組む意欲の維持・向上に資する教頭の個々への働きかけ</li> <li>・行事等のスリム化を進めるにあたり、地域・保護者の理解を得ること</li> </ul>

渡公教より示された研究主題「子どもの『学びの保障』をするための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上」の具現化に向かい、それをそのまま八雲町教頭会の研究主題として、今年度の研究を推進している。3年次研究の初年度ということから、実態把握と取組を町内各校において「共通取組シート」に整理し、それらの交流とともに改善・充実に向けた協議を進めてきた。

コロナ禍に対応した新しい生活様式の徹底や、国の施策として前倒しとなったGIGAスクール構想への対応（研修対応や環境整備等）などに追われ、十分な協議を進める時間を確保できなかったことは反省点である。

その中において、町内の各学校における先導的な取組や共通した取組などを踏まえ、今後、教頭として自校におけるマネジメントの改善に生かしていくべき指標や内容として、この「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」に整理した。

特にGIGAスクール構想に係るICT環境整備（設備面）については、八雲町教育委員会の尽力により11月末には一人一台の端末が整備される計画である。そこから実際に端末の使用を通しながら、ロードマップの見直しを図ったり、課題の洗い出しや解決策の検討を進めたりするなど、教頭が担うべき役割は大きいと考える。教頭の負担軽減にもつながるよう、町内の教頭間で情報の共有等を進め、子どもの「学びの保障」に向けた取組を具現化することに努めていく。



【視点1】子供の学びを保障するための組織的なICT機器等の活用とマネジメント		
○ICT 機器の活用	教育的効果について (ICT機器活用の実践と組織的な取組)	予測される問題点とその解決策について
	<p>○ ICT機器の活用は大きく実物投影機の活用と、コンピュータソフト（スクラッチ、ビスケット）による授業の2点を行っている。</p> <p>○ 4年生で例年行われている環境教育の授業を本年度はZOOMを使ってオンラインで行うこととした。</p> <p>○コロナ禍により校内研修にICT機器の活用を新たに盛り込んだ。普通教室にはすぐにプロジェクターが使用できる環境を整え、半数以上の教科でタブレット端末を活用した授業を行っている。全体研修では使用しているアプリなどについて交流。</p> <p>○eラーニングのアカウントを全校生徒に設定した。</p> <p>☆春の臨時休業はICT活用への意識が加速するきっかけとなっている。</p>	<p>○ スクラッチを行えばプログラミング教育を行っているという錯覚を教員が起こさぬよう、スクラッチは手段であることを指導している。</p> <p>○ 学校にタブレットの導入が進むと、オンライン会議の流れは更に進むことが予想され、僻地や遠隔地の学校にとっては利便性が向上する。</p> <p>○若手教員は機器の活用に苦がないが、やはり扱いが不得手の職員もいる。GIGAスクール構想の導入に向けて誰でも使える環境作りのために研修の充実が必要。</p> <p>○eラーニングの活用まではいっていない。各家庭のネット環境について町教委で調査があったが今後結果を共有して行く必要がある。</p> <p>☆次年度より個々へのタブレット端末が整備・実用スタートとなる。教頭会としても行政との連携を強化する必要がある。</p>
○異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携	外部との協働、連携の実践内容	主な成果と課題
	<p>○ 家庭との連絡手段に学校メールを活用していたが、本年度からは町教委が中心となり、学校ホームページが開設した。</p> <p>○ GIGAスクール構想の実現に向けた行政の動きが加速している。</p> <p>○ 本町教頭会は小中高の教頭で組織しているので情報の共有ができています。</p>	<p>○ 学校メールの登録が100%になっておらず、登録していない家庭にはメールの連絡を電話で行っており、その改善が課題。現在はホームページがメールの補完機能と化していることから、今後はHPによる情報発信が主流となるよう努めたい。</p> <p>☆GIGAスクール構想による児童生徒個々へのタブレット端末供給が始まるにあたって、その使い方（ルール）、活用内容の共有等、小中の細かい連携が必要となる。町教育研究所を活用していきたい。</p> <p>☆他の市町で同じ端末（OS）を使っている学校との連携を図っていきたい。</p>

【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
○学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方	現状における課題等（組織の活性化）	具体的な解決策
	<p>○ ICT教育の担当者はいるが、全体の取組としてなかなか浸透していかない現状が見られる。</p> <p>○ 特別委員会として「情報管理委員会」がある。校内で機能してはいるが、今後は町教委との連携が求められる。</p>	<p>○ 年間の研修計画には位置付けが難しいことから、長期休業期間を活用した職員研修を開催していきたい。</p> <p>○ ICT活用は校内研修に位置づけているので研修担当者や情報担当者を結びつけ研修の充実を図りたい。</p> <p>☆町教頭会での情報共有に努め、研修方法等、系統性のある組織運営を見出したい。</p>
	現状における課題等（データ管理、保存）	具体的な解決策
	<p>○ それぞれの学校でそれぞれのルールがあり、非常に対応が難しい。教頭間の引継ぎは簿冊の管理方法やデータの分類の仕方等、一定のガイドラインの必要性を強く感じる。</p>	<p>○ 各学校で情報セキュリティポリシー等のルールがあるため、抜本的な改善は難しいと考える。教頭間の引継ぎに関しては、例えば道立学校長の引継ぎルールを参考としてみることもよいかと思う。</p> <p>☆教頭PCのデータの分類の仕方が管内で揃えられれば大きな働き方改革となる。</p>
○働き方改革との関連性について	教頭の組織マネジメント力向上のポイント	今後の課題
	<p>○ 職員を早く帰すことを目的とするのではなく、職員個々に働き方改革の背景や法令等を正しく理解させた上で、職員が主体的にワーク・ライフバランスを意識した業務推進ができるよう、改善組織を全面的にバックアップする。</p> <p>○ 現状から校内研修による職員の意識改革の必要性を強く感じる。研修担当を促し「北海道の学校における働き方改革手引 Road」を活用した校内研修を実践する。</p> <p>☆結果を出し実感の持てる実践を進めることで改革の意義を理解させたい。ミドルリーダーらに働きかけ研修に前向きな雰囲気作りに努めたい。</p>	<p>○ 客観的なデータを収集するためには、現認等や教職員の自己申告では不十分であることから、校務支援システムの早期導入が求められる。</p> <p>○ 例えば C4th を導入した場合には活用まで数ヶ月かかると言われているため、研修の充実も不可欠である。</p> <p>○ 旧態依然とした踏襲の雰囲気が残されているが若手教員を促し、コロナ禍も逆手に取り改革を図る機会としたい。</p> <p>☆担当者を促し組織的な研修を確保していく中で小中高での情報の交流・共有を積極的に行うことにも努めていきたい。</p>

令和2年度  
第55回渡島公立学校教頭会研究大会

資料「共通取組シート2020」兼「実践のまとめシート」綴

発行日：令和2年11月28日

発行者：渡島公立学校教頭会

会長 渋谷 智 実

発行責任者：渡島公立学校教頭会

副会長 小川 尚 史

研究同人：松前町立小島小学校教頭	太田 浩司
福島町立福島中学校教頭	宮川 高宏
知内町立湯ノ里小学校教頭	佐藤 大樹
木古内町立木古内中学校教頭	金澤 誠一
北斗市立島川小学校教頭	吉田 圭
七飯町立大中山中学校教頭	寺崎 歩
鹿部町立鹿部中学校教頭	金子 賢
森町立駒ヶ岳小学校教頭	武内 貴宏
八雲町立浜松小学校教頭	足立 雅行
長万部町立長万部中学校教頭	植田 資世
(事務局研究担当) 北斗市立浜分中学校教頭	大友 貴代